

Economic Indicators

発表日: 2020年12月7日(月)

景気動向指数(2020年10月)

～CI一致指数は前月差+4.9ポイントの高い伸びに～

第一生命経済研究所 調査研究本部

経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

CI一致指数は5ヶ月連続の上昇

内閣府から公表された2020年10月の景気動向指数では、CI一致指数が前月差+4.9ポイントとなった。これで5か月連続の上昇であり、上昇幅も非常に大きい。内訳では、速報段階で反映される8系列すべてがプラス寄与となっている。海外経済の持ち直しを受けて輸出が増加し、自動車を中心として生産活動が上向いていることを受けて、輸出数量指数や投資財出荷指数、鉱工業生産指数など、生産・輸出関連系列の押し上げが大きいことに加え、前年10月の水準が低いことの裏が出た小売業販売額(前年比)のプラス寄与も大きくなった。

新型コロナウイルスによる悪影響が本格化した20年3～5月にかけてCI一致指数は累計で22.8ポイントもの低下となったが、その後6月～10月の累計で18.0ポイントの上昇となった。落ち込み分の8割弱を取り戻した形である。まだコロナ前の水準には距離があるものの、持ち直しのペースは当初想定されていた以上に速い印象を受ける。20年5月を谷として、景気は速いペースで回復していることが確認できる。

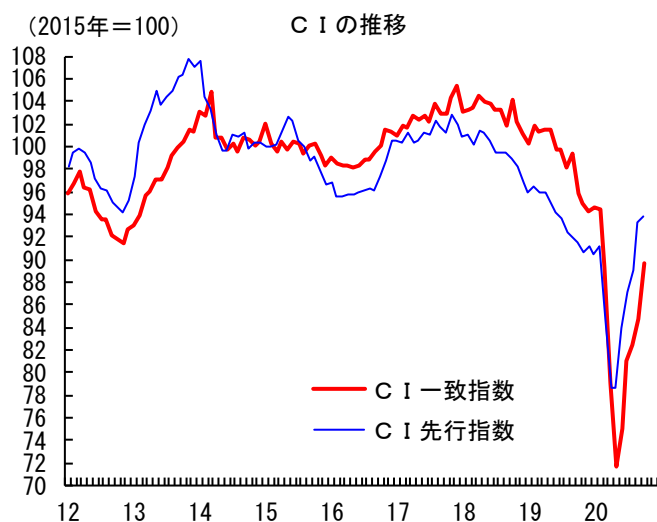
基調判断は「下げ止まり」維持。来月分で上方修正の可能性あり

内閣府によるCI一致指数の基調判断は3ヶ月連続で「下げ止まり」となった。8月に、それまでの「悪化」から上方修正されたが、9、10月もその判断が継続している。

ただ、仮に11月のCI一致指数が前月差で0.1ポイントでも上昇すれば、基調判断は「上方への局面変化」への上方修正の基準を満たすことになる。

また、さらにその翌月も前月差でプラスになった場合には「改善」へと2ヶ月連続で基調判断が上方修正されることになるだろう。

もっとも、11月については、生産予測指数について経済産業省が試算する補正值で前月比+0.4%と、小幅なプラス見込みにとどまる。また、新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、11月後半以降は国内でも個人消費に下押し圧力がかかりつつあるとみられる。11月分の景気動向指数で基調判断が上方修正されるかどうかは、まだはっきりしない。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

